

Library News

-Ver.Winter-

ライブラリーニュース 2024 年度第 3 号



冬

あっという間に秋も終わり、12月。そろそろ涼しい時期も終わり、段々と寒くなってまいりました。ところで、皆さんは冬休みの予定などがありますでしょうか？

友達や家族と休暇を楽しむ？新学期や入試のためにひたすらガリ勉する？もしくは、ミカンを食べながらこたつで温まる？

色々あるでしょうが、この冬休みで普段できない読書をするというのも良い経験になると思います。

そこで！この冬に是非読んでほしいおすすめ本の紹介や、じっくり読める創作小説などを載せてみました。この広報を読んで、図書室にも足を運んでもらえたら嬉しいです！もしかしたら一生のワンページを飾る本に出会えるかも……？

ライブラリーニュース 2024 年度第 3 号編集長 H・T



* * もくじ * *

冬休みにサクッと読める本・・・P2 ～ P5

Recommended Books in Winter 冬のオススメ本・・・P6 ～ P7

POP紹介・・・P8 ～ P15

創作小説・・・P16 ～ P20

編集後記・・・P21

冬休みにサクッと読める本

冬休みの期間を使って
サクッと読める本を集めました。
ぜひ読んでみてください。



「泣ける」

『鉄道員』 浅田 次郎

この本は8本の短編で構成されており、どの作品も「死」を取り扱っており、心にしみるものが多いです。



「泣ける」

『鏡の法則』 野口 嘉則

この本は、とある実話をもとに書かれていて、いじめられっ子の母親の視点で物語が進んでいきます。

今、反抗期の私からすると、結構共通する部分があって、泣きそうになりました。



「楽しい」

『陰日向に咲く』 劇団ひとり

この本は、5本の短編で構成されています。やはり芸人が書いているだけあって、ユーモアのあるものばかりで楽しく読めました。



「まさかの?!」

『カラフル』 森 絵都

この本、一見すると分厚いので読む気が失せますが、実際読んでみるととても引き込まれる作品で、とても読みやすい印象を持ちました。



「笑える」

『ホスト万葉集』 ホスト 75 人他

この本は、タイトルの通りホストが書いた詩が載っています。特に読むのが面倒な文章もなく、しかしホストが書いたものなので、ホストの情景が書かれていて面白かったです。



「考える」

『手紙屋』 喜多川 泰

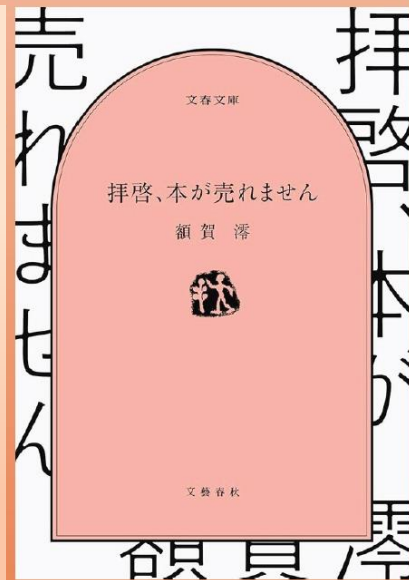
この本は、就職活動に苦戦している主人公が、10通の手紙を通して成長していく物語です。ストーリーが綺麗で、とても読みやすく、これから受験などを控えている私たちに必要なものを知ったような気がします。



「面白い」

『拝啓、本が売れません』 額賀 澗

この本は、本の売り方を様々な視点から解説していくような本です。特にゆとり世代に視点を置いていて、ゆとり世代にはその時代の悩みがあるのだと感じました。また、この本は図書館で見た中で一番うすい本だったので読みやすいと思います。

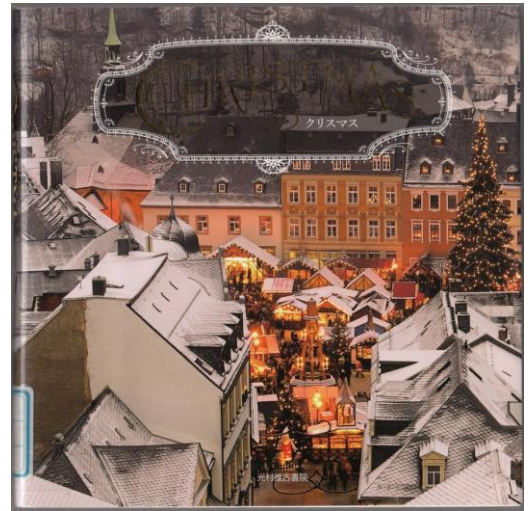


Recommended Books in WINTER

～冬のオススメ本～

< 『CHRISTMAS』 編：光村推古書院編集部 >

この本は世界各国のクリスマス街並みやイルミネーション、食べ物などを撮影した写真集になっています。色々な国のクリスマスの文化や季節の違いなどを感じられるので、クリスマスに世界旅行をした気分になれます！時間帯の異なる写真もあり種類が豊富で見飽きません。沢山の地域のクリスマスツリーが撮影されているのでそれぞれ比べるのも1つの楽しみ方だと思います！日本とは全く違う本格的なクリスマスの街を見ることが出来ます。



< 『お金の大学』 著：両@リベ大学長 >

もうすぐお正月にもなるということでお年玉を楽しみにしている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

なので、お金についての本を紹介します！

実はあまり分かってないスマホのSIMの話や将来に役立つような税金や保険の話や賃貸の話など

「貯める、稼ぐ、増やす、守る、使う」の5つのことを分かりやすく学ぶことが出来ます。

カラーであるかつイラストも入っているので分かりやすいと思います。

イラストの表情等が面白くなっていたりするのでとても読みやすいです。



<『一生楽しく浪費するためのお金の話』 著：劇団雌猫、篠田尚子 >

先程のお金の話に続きその中から**押し活**や**趣味**にフォーカスした本を紹介します！
押し活や趣味にお金を使っている方も多いのではないのでしょうか？
お金を使いすぎて友達と遊びに行けない！なんてことを経験したことがあったりしませんか？
将来仕事については自立している方が多いと思います。
その時に使えるお金を貯める術や国の制度を使って負担を少しでも**減らす**方法などが書いてあります。
また、ステップアップした投資の話も載っています！
この機会に是非読んでみてください！



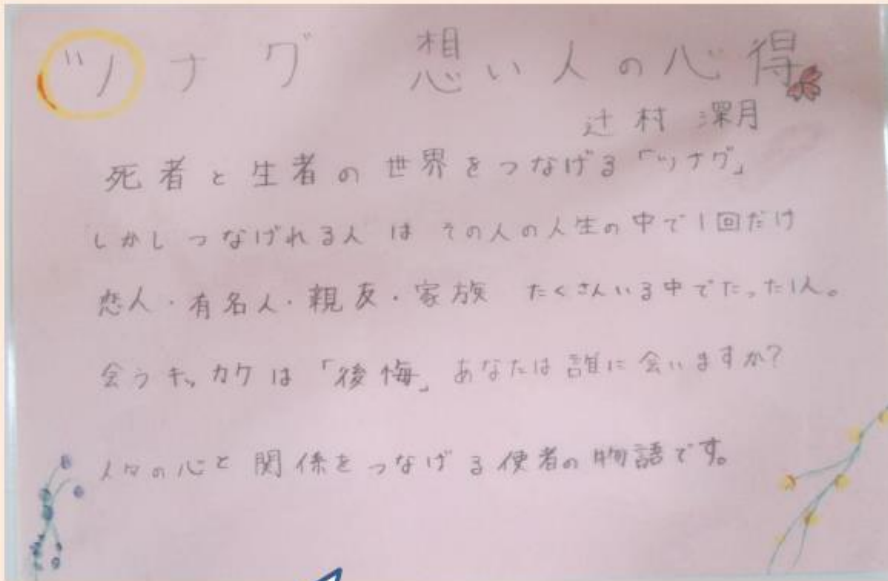
<『本業はオタクです。』 著：劇団雌猫 >



この本はオタクの方々の**実体験**を中心に構成されています。
オタクの皆様が**どんな仕事**に就いているのか**どのような生活**を送っているのかなどが書かれています。
リアルな話なので共感できる場所もあれば就職している方々の話なので勉強になったりもします。
沢山の話が分かりやすく載せられているので読んでいてとても楽しいです。
仕事との両立のコツなども掲載されているので、気になる方は是非手に取ってみてください！

POP紹介

ここでは、図書企画委員のおすすめ班が作成したPOPを紹介します。
図書館では、本を手にとってもらいたくなるような色々なPOPを展示しています。
飾っているPOPは、図書館を一層明るくにぎやかにもしてくれています。
一つ一つのPOPに個性が溢れていて、どのPOPも面白く興味深い出来になっています。
見ているだけでもテンションが上がるので、この機会にぜひPOPを見ていってください！



紹介した本

『ツナグ』 著：辻村深月
POP制作者のコメント
もし死んだ人に会える機会が人生の内たった一回あるならどんな思いをもって誰に会うか考えて読んでほしいです。
人生で一番後悔したことを思い浮かべながら読んでください。





紹介した本

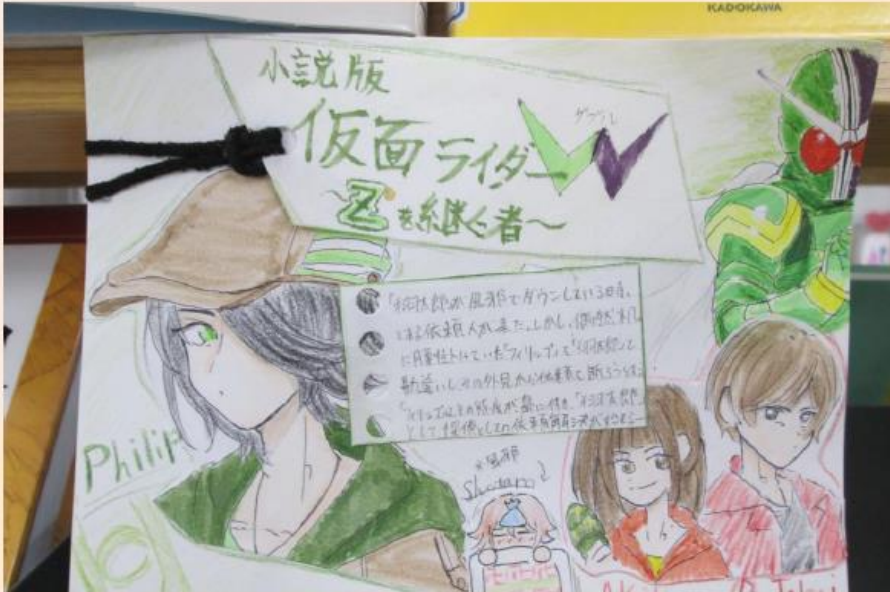
『夏へのトンネル、さよならの出口』

著：八目迷

POP制作者のコメント

この話のワンシーンにある「トンネルの中には何があるだろう？」と想像するような絵を表したかったので描きました。





紹介した本

『小説 仮面ライダーW ~Zを継ぐ者~』
 著：三条陸

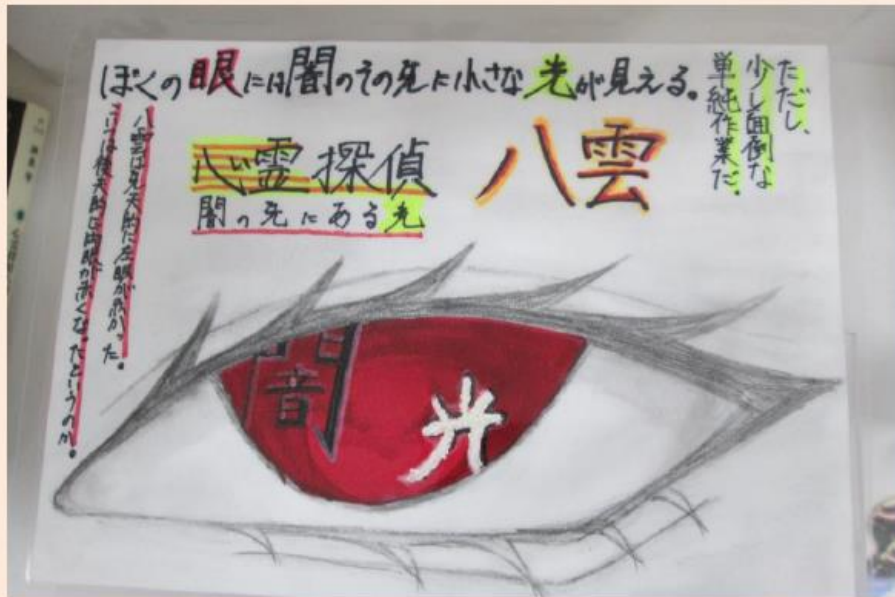
POP制作者のコメント

この物語は、フィリップが中心になっているので、
 緑を基調に制作しました。

本編を親ている方は、つながっている話なので
 新鮮な感覚もありつつ楽しめ、初めてふれる方
 も背景描写が分かりやすいので、風都の世界
 に溶け込めるとおもいます。ぜひ一度読んで風
 都の風を感じてみてください。

さあ、お前の罪を数えろ!!!!!!!!!!!!





紹介した本

『心霊探偵八雲 3 闇の先にある光』
 著：神永学

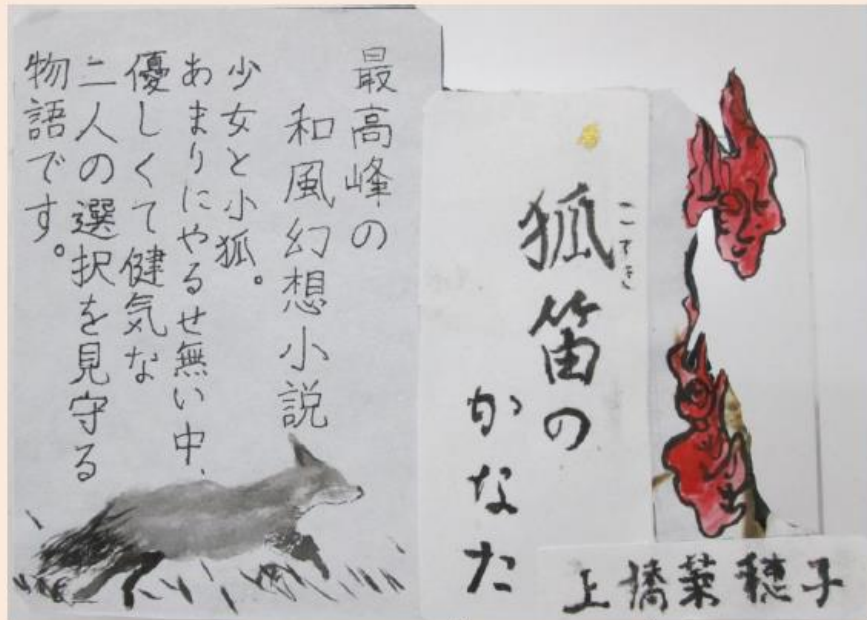
POP制作者のコメント

好きな本の POP だったので制作が思っているよりとても楽しかった。

ギリギリまで工夫したので気に入っている。
 本の内容と雰囲気を出すために頑張った。

解決のカギとなる眼を中心に眼の中に題名のキーワードとなるような文字を入れたり、周りも同じようなサイズにならないようにしたり、見やすくしたりした。





『狐笛のかなた』著：上橋菜穂子

POP制作者のコメント

小説の雰囲気に合わせて、内容を直感的につたえるため、文章ではなく、絵に注力しました。



『野食ハンターの七転八倒記』著：茸本朗

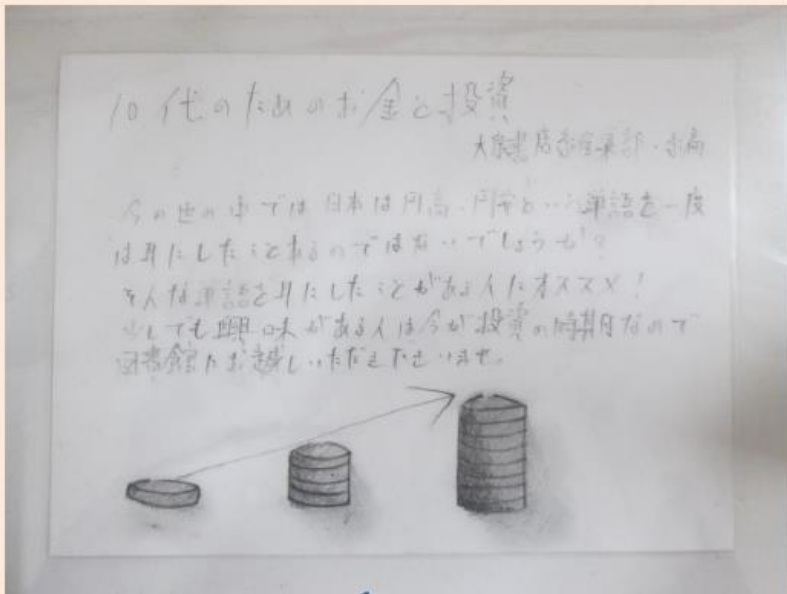


著：エリザベス・A・ダウンシー、ソニー・ラーション



『世界の民族衣装-装い方の知恵を探る』著：田中千代



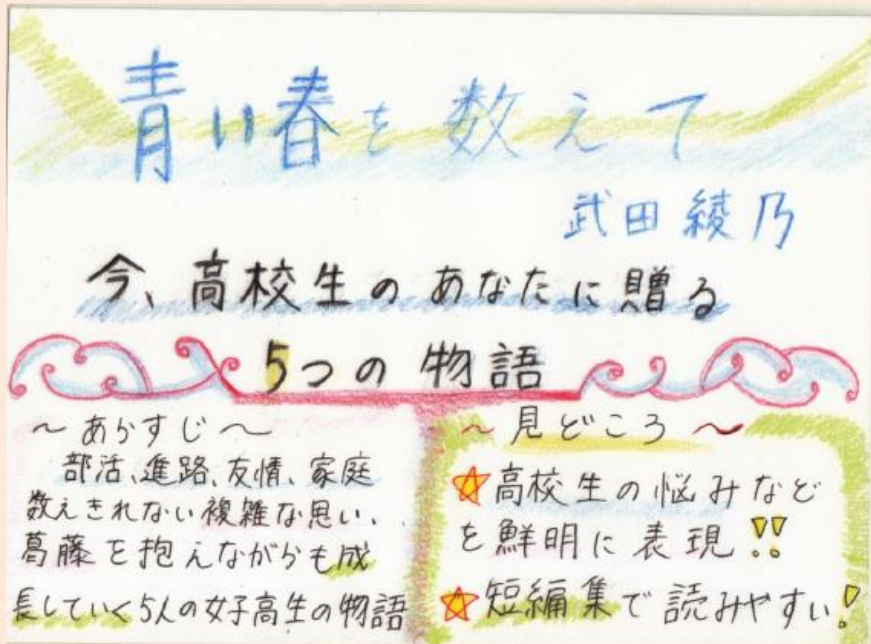


『10代のためのお金と投資』
編：大泉書店編集部

POP制作者のコメント

最近外資系の投資などに目を向けている若い人たちが増えていると感じたので、是非その興味を失うことなくさらに追及してほしいと思いこの本を紹介しました。この本は外資系に興味がない人でも簡単に読める本だと思うので是非たくさんの人に読んでもらいたいです！





紹介した本

『青い春を数えて』 著：武田綾乃

POP制作者のコメント

高校生の人間関係を描いた
短編集なので読みやすく、共
感ポイントが多くあるところがこ
この本の魅力です。このポップ
が青春の1ページを開く鍵にな
れば嬉しいです！



冬休みにじっくり読める！

創作小説 コーナー

ここでは、前回のライブラリーニュース
2024年度第2号のSF特集で掲載した、
創作SF小説「三毛猫の災難」の続きを掲
載します。

前回掲載した部分も併せて載せているの
で、前号を読んでいない方にも楽しんでい
ただければ嬉しいです。

それではどうぞ！

「三毛猫の災難」

アビス

スピーシア

異界。それは、この文明の進んだ世界の割れ目であり、様々な故人の遺産と人ならざる者、異端者が混在する場所。人々はそんな過酷な世界を必死に生きようと命を懸ける。

これは現実とは違う世界の、少し未来の、少し変わった人たちのお話……

さびさばまち

ハイドロ市・錆 錆 街 地上……

「コードネーム三毛猫、他の依頼で忙しいところ申し訳ないが、君にはたった今入ったこの依頼を受けて欲しい」
そう社長から言われた少女は仕事内容が書かれた文書を受け取った。社長から呼び出された時はクビにでもなると思ったが、どうやら重要な依頼なだけだったようだ。少女は、嬉々として敬礼した。
「わかりましたにゃ♪どんと任せてください！」

へきはつ

それを聞いた社長は長い碧髪をなびかせて微笑んだ。

アビス

「今回は地上ではなく異界での依頼だ。しっかりと武器を携帯するのを忘れずに、くれぐれも怪我のないようにね」

「了解です！それでは準備ができ次第出発しますね」

そう言って、三毛猫は社長に会釈して社長室を後にした。

錆錆街には、物と人を運ぶことを主な仕事とする運び屋集団、「猫の穴蔵」という組織があり、配達員と、何かあった時に構成員を助ける傭兵に別れて配達業をやっている。そして、その組織名の通り、構成員は各々猫科の動物を連想させるコードネームを持っているのが大きな特徴である。

この少女一右目周りに先天性の黒い痣があり、山吹色の髪と、白い肌を持つ一、コードネーム三毛猫もその構成員の一人であった。

三毛猫は構成員一人ひとりに与えられている個室に戻ると、顔認証式のロッカーを開けた。

ゴルフキャップのような小さな帽子を手にする。本物の三毛猫をデフォルメしたものが印刷してある、可愛げのある帽子だ。この帽子が、紺と黄色の、目立つ制服に良く合うと三毛猫は気に入っていた。制服に袖を通し、

アビス

でんきば

バッグに緊急医療セット、異界でも繋がる無線を入れ、最後に電気刃のクナイを二本、腰に差せば、猫の穴蔵の配達員の一人、三毛猫の完成だ。

びれい

個室を出て、同僚に挨拶しながら荷物が入った箱を取りに行く。今回は重要な依頼なため、箱も金色の線で美しい模様を描いている、プレミアム商品だ。三毛猫は冷や汗とともにひゅっ、と小さく息を飲むと、これまでやった

ホバーライド

ことがないほどの丁寧な手つきで荷物を浮遊車まで運んだ。

ホバーライド

あお きせき

アビス

車庫から、バイク型の浮遊車を出て、蒼い軌跡を残しながら、三毛猫は異界の「穴」の座標まで向かった。これから災難に遭うとも知らずに……

アビス セーフゾーン

鯖鯖街東部・異界内部安全地帯……

アビス

異界の中には一部、人間達が切り開き、安全地帯としたエリアが存在する。もちろん、いつでもどこに危険がある

アビス

かわからない異界の特性上、他の場所に比べればと言う話ではあるが、住居があちらこちらに建てられ、経済もそれなりに回っているところを見れば、そこが立派な一つの街だというのは誰もが認識できるだろう。

セーフゾーン

三毛猫はそんな安全地帯の実質的な管理者を前に恐縮していた。

「いやー、『猫の穴蔵』たちの配達は本当に早いですな！まさか注文してから半日で荷物を届けてしまうんですね！」

「いえいえそれほどでもないですよ♪私たちの第一はお客様ですので」

いつも以上にかしこまった物言いに、三毛猫は自分の喉が渇いてくのを感、それが顧客に悟られぬよういっそ輝く笑顔を見せた。

この空気をどうにかしようと、三毛猫が緊張で固くなった首を、縄を解くように無理やり回すと、特殊外骨格（※一般的な兵装と鎧とを合わせたような物）と銃器で武装した、年端も行かぬ子どもが、管理者の背後にいるのを見つけた。

からすば

鴉羽のような鮮やかな黒の髪に、ここらでは珍しい灰色の目をした特徴的な子だった。全身が武装されていたが、よく見るとわずかに露出した首元に摩擦で焼けたような奇妙な傷があった。

気になった三毛猫が目を向けると、その子供は光の乏しい灰色の目をぶいっと三毛猫の視線から外した。

「お客様。お客様の後ろにいる子は何ですか？」

先ほどまで薄っぺらい笑顔を浮かべていた管理者が背後に目を向けつままらなそうに紹介する。

「ああ、こいつは私の護衛ですよ。五か月ほど前に買ったんですが、声が出せないようでした、見ての通りつまらない奴ですよ。私の体はこいつのおかげで無事なんです、暇つぶしや話の相手にもなってくれないので近いうちに捨てようかなと」

捨てる、と管理者が何気なく放った言葉に反応して子どもの体がびくっとたじろいだ。

その時、三毛猫の無線が鳴り、三毛猫は管理者に断りを入れながら無線の音を出した。

無線は一度ヂヂヂ、と耳障りな音を出した後、淡々とした機械音で緊急アナウンスを流した。

スピーシア

アビス

セーフゾーン

「警報、警報。大型の異端者が鯖鯖街東部・異界内部安全地帯付近に接近中。当該地域にいる構成員は十分注意してください。繰り返しま……」

スピーシア

アナウンスが言い終わらないうちに三毛猫の真後ろの岸壁が豪快な音とともに破られ、問題の異端者が直々に現れた。

白い少女は全身の毛を逆立たせ、脂汗を掻きながらゆっくりと振り向いた。

「こ、これはまずいことになりましたにゃ……！」

ひとたび

スピーシア

辺りが一度の静寂に包まれる。二対の赤目と黒い鱗を光らせる、トラックほどの巨体の異端者が辺りを見回すと、壁の穴から青年くらいの盲目の子供たちが数匹と、群れのリーダーよりひとまわり小さい成獣が二匹顔を覗かせた。

「あ、あれは……、ティガですにゃ!？」

スピーシア

ティガ。数ある危険な異端者たちの中でも、特に遭遇したくない種である。性格は狡猾で凶暴。普段は皆、単独行動を好むが、繁殖期になると少数で群れを作り、子供が空腹ならどんなに巨大な獲物でも仕留める怖いもの知らずな一面も持ち合わせている。

セーフゾーン

(そんなティガが安全地帯に来るという事は外に獲物がいない、かつ狙いやすい人間がここには集まってくると知っているからですにゃ。一刻も早くここをでないと……)

安全地帯の様子は新たな訪問者によりパニックに陥っているようだった。無論、それはさっきまで三毛猫の傍にいた管理者もおなじだった。

「な、何だあのバケモノ……!？お、おいお前! 私の護衛だろう!？突っ立ってないで私を守れ!」

管理者は近くの護衛に叫ぶも護衛は恐怖で身体が動かず、ずっと目の前の二足歩行のトカゲの目を見ていた。だが、そんなことなどお構いなしに管理者は必死に護衛の肩を揺さぶる。

「おい! 助けろと言っているだろう!？私が死んだらお前なんてすぐクビになるんだぞ!」

「……っ!」

やっと勇気を振り絞り護衛は銃を巨体に向かって撃った。だが銃が壊れかけなのか電流がしっかり弾に伝わらず鱗の一つを焼くだけになった。

そこで群れのリーダーが初めて動き出し弾を撃った護衛のほうへにじり寄ってきた

「ひ、ひいィ! い、命だけはあ……!」

「……!」

管理者が卒倒し護衛が庇う。無情にもその背中を捕食者の爪が襲う。その前に……

「危ない!」

三毛猫が二本のクナイを十字に交差させ凶悪な爪を受け止めた。

「く、うう……! にゃああ!」

そして弾き飛ばす。ひとまずは切り抜けたが三毛猫はただの配達員である。目の前でよだれを垂らすリーダー

スピーシア

や、周りの人たちを襲い始めた他の異端者から皆を守ることは到底できない。

(今から本社の傭兵を呼んでも間に合わない! 誰か……、誰か助けてくださいにゃ!)

そう願いながら三毛猫は後ろ手に腰の無線機から救難信号を送った。

同時刻、鯖鯖街東部・異界内部……

三毛猫が災難にさいなまれている中、ただひたすらに黒土を掘っている二人の影があった。

「ったくも～、なんで私らなんかが土から浸食結晶なんて掘り出してるわけ?」

「しょうがないよ、ピテラ。依頼人は異界にもう二度と入りたくないみたいだったからさ。狛犬屋は傭兵団ではあるけど何でも屋みたいな側面もあるし、たまにはこういうのもありなんじゃない？」

「異界で恐怖体験なんて日常茶飯事でしょう。メンタル弱いわねえ。おかげで私の綺麗な顔が泥だらけよ」

ピテラとアルミ。傭兵団、狛犬屋の構成員たちだ。もっとも今はその片鱗すらないが。

変わらず土を掘っているとアルミの無線から軽快な音が響いた。

「？何だろう、こんな時に」

「音からして救難信号じゃないかしら。しかも無差別に届くタイプね。本社のとかじゃなく無差別を選ぶなら今すぐにでも助けが欲しいんでしょ」

「信号は……」

アルミは救難信号が出されている場所と送った人が誰なのか確かめた。異界ではしょっちゅう救難信号が出されるので、届いた情報を読み取りれば所属元や名前が分かるようになっている。その送り相手は……

「猫の穴蔵、三毛猫……？」

いつも狛犬屋に依頼を届けてくれる少女だった。

三毛猫たちは依然、交戦状態にあった。武器を携帯していた者たちが三毛猫と共に応戦していたが護衛の少年以外は戦闘経験がさほどないために、段々と三毛猫たちも追い詰められていた。

(助けはまだですにゃ？もう限界ですにゃ……！)

今まで善戦していた三毛猫の身体が今にも爪に引き裂かれようとしたその時、

「三毛猫！伏せなさい！」

「……！ピテラさん！」

聞き覚えのある声と共に褐色の女性が降り立ち、群れのリーダーに向けて電気弾のサブマシンガンを浴びせると、リーダーは顔面から弾幕を浴び身体をのけぞらせた。

「ギャオオオオオオオオオ！！」

「ピテラさん！来てくれたんですね！もうすぐで身体を真っ二つにされるどころでしたにゃ！」

「待たせたわね、三毛猫。あとは任せなさい！アルミ！」

「了解。解体する」

ピテラが命じるとアルミは背中から首切り刀のようなコンバットナイフと腰から電気弾のリボルバーを取り

スピーシア

出し異端者達へと駆けて行った。

まずはまだ息のあるリーダーにとどめを刺し、激昂した成獣たちそれぞれにリボルバーを撃ち、鎮圧。最後に、

「ごめんね」

そう言いながら盲目の子供たちに次々と弾を撃ちこんでいった。ここまでたった数十秒。一介の傭兵が見せる

はやて

疾風のごとき職人技だった。

こうして、三毛猫の災難な一日は幕を下ろした。その後、三毛猫が本社の傭兵を呼ばずに生身で応戦したことを社長に知られ、三毛猫がこっぴどく怒られたのは、また別のお話。

編集後記

編集長 H・T

今回、初めて編集長をやらせていただきましたが、スケジュール管理や、メンバーへの声掛けなど、やる事が多くてとても忙しかったです。ですが、その分力を入れて書いたので満足できるような出来になったのかなと思います！

POP紹介 Y・T

今回のPOP紹介では、ページの配色を変えたり、レイアウトを何度も調整したりと、細部まで拘って制作できたので良かったです。おすすめ班のPOPを書いてくださった方々や、記事の提出がギリギリになってしまったにも関わらず、文句を言わないでくれた編集長にも、感謝したいと思います。

冬のおすすめ特集 K

自分で本を読んで一冊ずつ決めたのが結構大変でした。

ですが、とても楽しく記事を作成できたので良いものにできたのではないかなと思います。

文字の色やフォントにもこだわることができました。

冬休みにサクッと読める本 I

今回は二回目の編集ということもあって前回よりはよくできたと思います。

本はほとんどが長くてサクッと読めないのが本当にサクッと読める本を厳選するのが大変でした。

こんな感じで次回も頑張りたいと思います。

制作：図書企画委員 広報班

(H・T, Y・T, K, I)

編集担当：H・T

イラスト：K

小説：詩季

編集・発行：湘南学院高等学校 図書企画委員

発行年月日：2024年12月17日



Winter